

平成 18 年度 事業報告書

(平成 18 年 4 月 1 日から平成 19 年 3 月 31 日まで)

【実施方針】

- 1 生涯学習関連機関との連携、ネットワークを構築することを通して、市民ニーズを踏まえた事業展開を図る。
- 2 市民参画を進め、市民による市民のための学習活動を支援する。
- 3 財団が有する専門性・柔軟性を活かしながら、効率的・効果的な事業運営を行う。

【事業報告】

1 **学習機会提供事業**

(寄附行為第 4 条第 1 号に掲げる事業)

(目的) 施設機能を有効に活用するとともに、市内の関係機関及びサークル・団体との連携を図りながら、市民の多様化した学習ニーズに対応した機会を提供する。

(効果) 学習機会の質的・量的拡充が図られることにより、受講者層が拡大し、市民の生きがいつくり、社会参加が促進された。

(支出額) 15,125,862 円

(1) さっぽろ市民カレッジ

年 3 期 (平成 18 年 5 ～ 8 月、9 ～ 12 月、平成 19 年 1 ～ 3 月)、15 歳以上の市民 (高校生を除く) 及び市内勤務者を対象に、文化教養系、市民活動系、産業・ビジネス系の 3 つの系を柱に、年間 136 講座を実施した。

文化・教養系は、学習活動の入門編としての趣味・教養講座をはじめ、実用的内

容の講座や現代的課題（社会の急激な変化に対応し、人間性豊かな生活を営むために人々が学習する必要がある課題）の解決に資する講座、また「さっぽろ」を多角的に学ぶ講座など、幅広い分野で実施した。

市民活動系、産業・ビジネス系においては、大学等の高等教育機関などと連携を図りながら、リカレント教育を中心に段階的・継続的な学習機会の提供を目的とした講座を実施した。

【実績】全 136 講座（総定員 4,230 名）

（市民活動系 19 講座/産業・ビジネス系 12 講座/文化教養系 105 講座）

受講者数 3,520 名／修了者数 3,065 名

学位取得者：「学士号」3 名、「修士号」5 名、「博士号」2 名

学位取得者累計：「学士号」32 名、「修士号」17 名、「博士号」9 名

（2）ジュニア・ウィークエンドセミナー

主に小学校高学年及び中学生を対象に、週末の土曜日を親子で有意義に過ごすための学習機会として、施設機能を活かした講座を実施した。

ア 札幌市生涯学習センター

札幌市からの委託を受けて、様々な分野の体験・実践型の講座や、生涯学習センターの施設機能を活用したパソコンや料理の講座を、他の関連団体とも協力し、それぞれ毎月 1 回程度土曜日あるいは日曜日に実施した。

【実績】

・「体験・実践教室（Aコース）」 受講者数 235 名

（総定員 280 名、定員 20 名×4 回、30 名×5 回、50 名×1 回）

・「親子クッキング教室」 受講者数 177 名（総定員 240 名、各回定員 24 名）

・「親子パソコン教室」 受講者数 263 名（総定員 300 名、各回定員 15 組 30 名）

イ 札幌市青少年科学館

理科系知識の啓発を目的として、毎月 1 回土曜日に、実験・工作等の事業を札幌市教育委員会と共催で開催した。なお、平成 18 年度については、地域子ども教室（ジュニアサイエンス広場）と一本化して実施した。

【実績】参加者数 871 名（年 40 回実施）

（3）生涯学習関連機関等連携事業

ア ボランティア啓発・交流イベントの開催

博物館や美術館等の生涯学習関連施設で活動するボランティア団体の交流と研修を目的とした「生涯学習ボランティアメッセ 2006 in SAPPORO」を平成 18 年 9 月に

開催した。

【実績】参加団体 8 団体／参加者数 220 名

イ インターンシップ制度の導入の検討

平成 19 年度の制度導入に向けて、大学等の高等教育機関との調整を図った。

【実績】インターンシップ受入れに向けて、先行事例を調査するとともに、研修プログラムの検討を進めた。

(4) 生涯学習センター施設機能活用事業

ア 舞台操作技術講習会

平成 18 年 5～6 月、15 歳以上の市民及び市内勤務者を対象に、基礎レベルの舞台操作技術の習得及び施設利用の促進を目的に実施した。(8 日間)

【実績】受講者数 13 名 (定員 30 名)

イ バックステージツアー「ちえりあホール探検隊」

平成 19 年 2 月、小・中学生の親子の市民を対象に、普段見る機会が少ない「ちえりあホール」の舞台裏や設備に触れることで、舞台への関心を高めることを目的に実施した。

【実績】参加者数 9 組 22 名 (定員 15 組 30 名程度)

ウ 音楽スタジオ技術講習会

平成 18 年 11 月、15 歳以上の市民を対象に、生演奏の録音に必要な機材操作の基礎知識等を学びながら、CD 制作のノウハウを習得するとともに、施設利用の促進を目的に実施した。(6 日間)。

【実績】受講者数 12 名 (定員 12 名)

(5) 視聴覚学習機会提供事業

ア オペラシアター

年 6 回 (平成 18 年 5 月、7 月、9 月、11 月、平成 19 年 1 月、3 月)、センターが保有する映像教材 (LD、DVD) を活用し、これを鑑賞することで、質の高い芸術への関心が高まるとともに、映像教材や音楽資料等の利用促進が図られることを目的に実施した。

【実績】受講者数 1,209 名 (総定員 2,616 名、各回定員 436 名)

イ 16 ミリ映写機操作技術講習会

視聴覚センターが保有する、16 ミリフィルム教材の利用促進を図るため、年 4 回 (平成 18 年 4 月、7 月、11 月、平成 19 年 1 月)、15 歳以上の市民 (高校生を除く) 及び市内勤務者を対象に、視聴覚ボランティアグループ「オンデマンド」の協

力を得て実施した。

【実績】受講者数 39 名（総定員 80 名、各回定員 20 名）

（6） 青少年科学館学習機会提供事業

ア 「プラネタリウム祭り」の開催

開館 25 周年記念事業の一環として、平成 18 年 11～12 月に「第 1 回プラネタリウム祭り」を開催した。プラネタリウム解説コンテスト・プラネクイズ・ちびっこプラネ等を実施し、プラネタリウム及び青少年科学館の PR を図った。

【実績】2,127 名（期間中のプラネタリウム観覧者数）

イ 宇宙セミナー

宇宙科学に携わる研究者を迎え、市民を対象に講演会を開催した。平成 18 年度は、アラスカ大学国際北方圏センター所長 赤祖父俊一氏を迎え、「オーロラが語る宇宙の神秘」と題した講演を実施した。

【実績】94 名（定員 180 名）

ウ 星空の歩き方

青少年科学館の天体観測機器やプラネタリウムを活用しながら、宇宙・天文についての知識を深めるための講座（年 3 期各 6 回）を開催した。

【実績】1 期（平成 18 年 5 月～7 月） 31 名

2 期（平成 18 年 9 月～11 月） 22 名

3 期（平成 19 年 1 月～3 月） 27 名

エ プラネタリウム・劇空間

プラネタリウムのドーム空間を生かし、平成 18 年 11 月に星空のもとで生の音楽演奏を提供するコンサートやヒーリングミュージックを組み合わせ癒しの空間を提供する投影を行い、「教育」に止まらない新たな可能性を試行する事業を実施した。

【実績】コンサート（ギター 173 名 フォルクローレ 145 名（定員各 180 名）

癒しプラネ 1 回目 45 名 2 回目 51 名 3 回目 45 名（定員各 180 名）

オ 4 次元デジタル宇宙シアター

天文に対する興味・関心を喚起するため、平成 18 年 11～12 月と平成 19 年 2 月に、国立天文台が開発した 4 次元プログラムによって立体視できる宇宙空間の映像を、天文指導員の解説を交えて上映した。

【実績】実施回数 52 回 参加者数 1,804 名

カ 大人のための星の学習

中高齢の初心者を対象に、平成 18 年 10 月と平成 19 年 1～2 月に、天文学習の機会と、実際の星空を観望する機会を提供し、天文科学に対する興味・関心の喚

起と天文基礎知識の普及を図るための講座を開催した。

【実績】 1回目 16名（定員 40名）

2回目 32名（定員 40名）

キ 親子天文教室

小学生とその保護者を対象に、平成 18 年 8 月、平成 19 年 1 月に、天文工作（手作り望遠鏡・星座の立体模型）を行い、天文に対する興味・関心を高めることを目的とした講座を実施した。

【実績】 1期 37組 86名（定員 30組）

2期 17組 37名（定員 30組）

（7）生涯学習センター・青少年科学館二施設連携事業

青少年科学館の専門性と生涯学習センターの立地や施設機能を活かし、生涯学習センター周辺地域の方々にも、天文分野に関する学習機会を提供するため、両施設が連携し、生涯学習センターを会場とした星空の観望会を実施した。

【実績】平成 18 年 8 月実施／参加人数：65 名

2 人材活用育成事業

（寄附行為第 4 条第 2 号に掲げる事業）

（目的） 市内の関係機関及びサークル・団体との連携を図りながら、学習活動を通して市民活動及びまちづくり活動を担う人材を育成する。

（効果） 学習活動を通して人材を育成し、その人材が活躍することにより、学習活動⇒学習成果の還元⇒さらなる学習活動、といった学習活動の質的・量的拡充が図られ、結果として、ボランティア等による市民活動及びまちづくり活動の活性化が図られた。

（支出額） 838,755 円

（1）学習支援者育成・活用事業

さっぽろ市民カレッジの受講修了者が講座の講師（補助講師）を務めるなど、学んだ成果を積極的に活かす人材の育成と支援を行った。

昨年度は、ワークショップ関連講座を修了した 2 名が、今年度の同関連講座の学習支援者として講座に関りながら、学習成果の活用に向けた知識・スキルの研鑽を行った。また、さっぽろ市民カレッジのまちづくり講座では、市民ディレクターが

撮影した地域におけるまちづくり活動の状況を学習教材として活用するなど新たな取り組みを行った。

(2) 生涯学習指導者研修事業

生涯学習とまちづくりの視点に立ち、地域住民の学習活動及びまちづくりを支援する職員の資質向上と育成を図るための研修講座を実施した。各区役所地域振興課職員・まちづくりセンター職員を対象に、広報誌の作成に関する研修講座の実施と区民センターや地区センター等の施設職員を対象に、ブログを活用した情報発信に関する研修講座をそれぞれ平成 19 年 3 月に実施した。

【実績】地域に根づく広報誌の作り方 参加者数 19 名(定員 30 名)

ブログを活用した情報発信講座 参加者数 21 名(定員 30 名)

※ブログとは「weblog(ウェブログ)」を略した言葉で、一般的に「インターネット上の日記風ホームページ」と訳される。ブログは、迅速な情報提供や情報の双方向性が高いのが特徴。

(3) 生涯学習ボランティア育成事業

生涯学習ボランティア(ちえりあ学習ボランティア)に対して、定例研修会や外部講師を招聘した「生涯学習ボランティア研修会」を通じて、講座の企画や運営スキルの向上を図るとともに、その成果を実践するため、「さっぽろ市民カレッジ講座」の一部(9講座)をボランティアと協働で企画講座を実施した。

また、平成 19 年 3 月に広く新人ボランティアを募集するための説明会を実施し、新たに 22 名がボランティア活動に参加することとなった。

【実績】平成 18 年度末 ちえりあ学習ボランティア登録者数 48 名

3 **学習活動支援事業**

(寄附行為第 4 条第 3 号に掲げる事業)

(目的) 市内の関係機関及びサークル・団体との連携を図りながら、情報収集・提供をはじめとして、市民の自主的活動や連携・交流活動を支援する。

(効果) 学習活動にこれまでかかわってこなかった市民に対しては、きっかけづくりを提供し、学習活動を行ってきた市民に対しては、これまでの学習成果を活かす場を提供することができ、生涯学習活動の底辺が広がった。

(支出額) 14,946,961 円

(1) メディアプラザ運営事業

講座・サークル等の学習機会情報の提供、図書の閲覧・貸出、音楽・映像資料の視聴、インターネットによる情報検索サービスなど、市民の学習活動を支援するメディアプラザの運営を行った。

【実績】メディアプラザ利用者数 52,848名

(2) 生涯学習情報収集・発信事業

ア さっぽろ生涯学習ネットワーク情報Sá:[サア]の発行

生涯学習関連施設・団体が実施している学習機会の情報を一覧で提供する情報誌を発行した。

【実績】年3回発行（平成18年4月、8月、12月）計24,000部

イ IT機能（ホームページ等）の活用

魅力ある情報や機能を追加した新ホームページを活用し、積極的な情報発信を行う一環として、新たにブログを利用した学習情報の提供として「ma-navi(マーナビ)」の試験運用を開始した。

【実績】情報提供団体37団体

（行政関係機関、大学・短期大学・専修学校、カルチャーセンター等）

(3) 生涯学習普及啓発事業

ア ちえりあフェスティバル（8月実施）

市民との交流を深めながら生涯学習の普及啓発を図ることを目的として、生涯学習総合センターを会場に、ちえりあフェスティバルを3日間に渡り開催した。

(7) 生涯学習センター主催行事

ちえりあ学習ボランティアの企画運営による、手品・紙芝居などの「芸」自慢イベントや、絵画・生け花・社交ダンスサークルなどの体験教室を実施した。

(4) 青少年センター主催行事

青年スタッフが企画・運営を行い、屋外でステージ発表や屋台などのイベントを実施した。

(ウ) 教育センター主催行事

親子を対象に、紙コップなどの身近なものを使った実験や工作等のイベントを実施した。

(I) リサイクルプラザ主催行事

環境をテーマに、おもちゃ修理コーナーや危険ゴミの展示、生ゴミの堆肥化相談コーナーなどを実施した。

(オ) 各施設連携行事

各施設の特徴を活かしながら複合施設としての一体感を出すため、各施設が連携して食器洗浄車の実演やコミュニティFM4局による公開生放送を実施した。

【実績】3日間延べ参加者数 14,134名

〔内訳：生涯学習センター関係 5,288名／青少年センター関係 7,510名／
教育センター関係 73名／リサイクルプラザ関係 1,263名〕

イ サークル発表会（11月実施）

平成18年11月に、ちえりあ及び札幌市内の区民センター等で活動している舞踊やコーラス等のサークル団体が、学習成果を発表する場として、ちえりあホールにてサークル発表会を3日間にわたり開催した。

【実績】参加団体数 41団体（621名） 来場者数 2,800名

(4) 共催事業

ア 科学技術週間事業「科学映画会」（共催：日本科学技術振興事業団）

平成18年5月に、科学技術週間協賛事業として科学技術映像祭の入選作品を上映した。

【実績】入場者数 818名

イ 青少年のための科学の祭典札幌大会（共催：北海道科学の祭典実行委員会、日本物理教育学会北海道支部、日本科学技術振興財団・科学技術館、北海道新聞社）

平成18年9月に、中高生を中心とした出店形式による実験や工作を行った。

【実績】参加者数 1,603名

ウ 札幌市中学校 私たちの科学研究発表会（共催：札幌市中学校文化連盟）

平成18年11月に、市内中学校の科学クラブを対象に、研究活動発表会を開催した。

【実績】参加校数 15校 126名

エ 中学校校内放送コンテスト（共催：札幌市中学校放送教育研究会）

平成18年7月に、札幌市内の中学校の校内放送局員が制作した放送番組と各放送局で活動するアナウンサーの放送技術に関するコンテストを開催した。

【実績】参加校数：6校 30名

オ 中学校校内放送技術講習会（共催：札幌市中学校放送教育研究会）

平成18年8月、平成19年1月の年2回、札幌市内にある中学校の校内放送局員の技術向上を図ることを目的とした講習会を実施した。

【実績】8月 参加校数：8校 30名／1月 参加校数：4校 9名

カ 日本映画名作祭 2006（共催：札幌映画サークル）

東京国立近代美術館フィルムセンターが保有する貴重な日本映画フィルムの提供を受け、「日本映画」名作4作品を2日間（平成18年10月）にわたり上映した。開催にあたっては、札幌映画サークルの協力を得て、両者による実行委員会形式で実施した。

【実績】入場者数 738 名（27日：381名／28日：357名）

上映作品「にぎりえ」「あすなる物語」「雁の寺」「怪談」

（5） 視聴覚教材利用促進事業

年6回（平成18年4月、6月、8月、10月、平成19年1月、2月）、視聴覚センター所有のフィルムを活用した「ちえりあ映画会」を開催した。

【実績】入場者数 1,765 名（総定員 2,616 名、各回定員 436 名）

（6） 青少年科学館天文学習支援事業

ア 天文相談コーナー（星のへや）の運営

代表的な天体望遠鏡や参考図書などを常備した天文相談コーナーを設け、天文に興味を持った人の初歩的な疑問に答えた。

イ 天文ホームページ「天文Q&Aコーナー」

ホームページにQ&Aコーナーを設け、本で調べるのが難しい天文に関する質問の受付と回答を行い、学習を支援した。

（7） 青少年科学館情報発信事業

ア 「天文ニュース・コーナー」による情報提供

青少年科学館1階エントランスホールに「天文ニュース・コーナー」を設け、最新の天文情報を紹介した。

イ 優れた科学技術を有する地域企業の製作品等の紹介

科学技術への親しみと地域企業への関心を喚起するため、平成18年10月に、北海道大学及びNPO法人 北海道宇宙科学技術創成センター（HASTIC）と連携し、道産ロケットや人工衛星の開発を行っている企業の工場見学ツアーを実施した。

【実績】参加者数 52 名（定員 50 名）

(8) 文化振興事業

地域に根ざした芸術・文化の振興を図るために落語芸術協会の協力を得て「ちえりあ寄席」等のイベントを開催した。

ア ちえりあ寄席

市民が日本の伝統芸能文化である「落語」に親しみ、生涯に渡って楽しむ機会を提供するとともに、それを支える市民の育成と文化力を高めるため、8月に本格的な寄席として「ちえりあ寄席」を開催した。

【実績】平成18年8月25日（金）～27日（日） 4公演 1,409名

イ およこ寄席

落語から親子一緒に「古き良き伝統や風習などの文化を知る」機会を提供し、その話題をもとに家族のコミュニケーションを図る観点から、親子参加型の体験寄席「およこ寄席」を開催した。

【実績】平成18年8月26日（土）～27日（日） 2公演 299名

ウ 落語鑑賞会

生涯学習センター近郊の小学校の児童（4年生以上）を学校単位で無料招待し、寄席太鼓の実演や解説、曲芸などを交えた、参加体験型の落語鑑賞会を開催した。

【実績】平成18年8月25日（金）2公演 538名（発寒南小、手稲宮丘小）

エ 親子で寄席ちょうちんをつくろう

寄席文化の解説や簡単な落語を紹介し、地域に密着した笑いの文化を子ども達に伝えるため、寄席ちょうちんの絵付けを指導し、その作品を展示した。

【実績】平成18年8月5日（土） 親子6組 13名

4 調査研究事業

（寄附行為第4条第4号に掲げる事業）

（目的） 市民の学習ニーズに対応した生涯学習事業のあり方について調査研究する。

（効果） 生涯学習センターでは市民の学習ニーズを基に、新しい事業形態について試行し調査したことで、事業運営のノウハウを高めた。

また、青少年科学館では職員による調査研究報告書をもとに、事業の改善に努めた。

（支出額） 292,800円

(1) **生涯学習に係る調査研究**

平成 18 年度さっぽろ市民カレッジの全受講者 1,830 名を対象に、受講動機、講座内容の満足度など「市民カレッジ講座」に関する事項や生涯学習センターの学習サービスに対する認知度を調査するアンケートを平成 19 年 3 月に実施した。

(2) **科学技術に関する資料の収集**

解説の基礎資料、展示物及び展示の改良に資するため、市販の出版物や他施設における発行物等を収集した。

(3) **天文資料の収集**

インターネット画像、市販の出版物及び他施設における発行物の収集に加え、科学館天文台、札幌市天文台及び移動天文車を活用して天体写真を撮影した。

(4) **札幌市青少年科学館職員による調査研究所見等の集約**

全職員が、科学・科学技術分野及び館の運営に関する所見・報告を文書により提出し、これを編集した。

5 **生涯学習関連施設管理運営事業**

(寄附行為第 4 条第 5 号に掲げる事業)

(1) **札幌市青少年科学館の管理運営**

札幌市の指定を受けて、科学技術に関する学習機会や体験機会の提供を目的として、札幌市青少年科学館の管理運営を行う。

(展示事業の管理運営、プラネタリウムの管理運営、特別企画の開催、常設イベントや体験イベントの開催)

(支出額) 398,746,068 円

ア 展示事業の運営

(7) **常設展示**

展示物を「見て」、「触れて」、現象を「考えてみる」ことができるよう、〈宇宙〉

〈北方圏〉 〈原理・応用〉 〈マルチメディア〉 のテーマを主とし、より強い印象

が残り、理解しやすい展示物の整備を行った。

(イ) 特別企画の開催

常設展示では伝えきれない科学情報を提供するため、話題性の高いテーマや特定のテーマを深く掘り下げた、体験型展示を中心にした特別企画を、小中学校の夏休みや冬休み等の期間に合わせて実施した。

夏の特別企画「発明王エジソン展 ～知られざる天才の秘密～」	
趣旨及び概要	日本の未来を担う子どもたちをはじめ、若年層から高齢層まで多くの方々に親しまれる、好奇心と創造性にあふれた展示によってエジソンの功績と意志を再考し、次世代につないでいくことを目的として開催
実施期間	7月29日～8月20日（23日間）
展示構成	(株)バンダイのトーマス・アルバ・エジソン・コレクションから厳選した100点以上の展示物を公開。会場内に体験コーナーも設置
入館者数	41,656名
冬の特別企画「科学戦隊サイエンジャー登場！！ ～緊急指令！科学戦隊に入隊せよ！～」	
趣旨及び概要	ヒーロー戦隊のイメージを打ち出し、隊員の仲間に入るという目標を持たせて、楽しく科学を体験することで、子どもたちの科学への興味・好奇心を高めていくために開催
実施期間	1月6日～1月21日（16日間）
展示構成	科学戦隊サイエンジャーから出される科学に関するいろいろな課題をクリアして、科学戦隊に入隊してもらう。体験型の展示物（「はこの中のお宝をさがせ！」「かくしヒントを解読せよ！」等）を用意し、体験することで答えやヒントが得られるという構成
入館者数	21,943名

第1回環境科学展「環境についてもっと知ろう！」	
趣旨及び概要	未来を担う子どもたちの環境に対する興味や関心を喚起し、理解を促すために開催
実施期間	3月24日～4月1日（9日間）
展示構成	高校・大学・企業等の環境に関わるパネル展示や実演などのブース展示（軽油に替わる新燃料「バイオディーゼル燃料」、廃油のリサイクル、ロボットを学びながら環境を考えよう等）
入館者数	11,565名

(ウ) 実演・実習・実験等

来館者が科学や科学技術について理解を深められるよう、サイエンスショーや

テレビスタジオなど、解説を交えながらの参加形式による実演等を行った。

また、来館者が多い日曜・祝日に、科学に親しみやすい実験や工作会を行った。

サイエンスショー	<p>化学・物理系実験を解説員が実演し、科学の不思議さや楽しさを伝え、科学への関心を高めるため、延べ742回実施した。</p> <p>【実績】観覧者数 17,648名</p> <p>題材：4月～6月「風船の不思議～われて大きな音が出るのは？」</p> <p>7月～10月「ひかり、再発見！～音を光に変えて～」</p> <p>11月～2月「しゃぼん玉の科学～表面張力～」</p> <p>3月 「のぞいてみよう、超低温の世界！」</p>
ちよびっとサイエンス	<p>科学への関心を高めるため、空気砲や偏光板を利用した簡単な実験等を行い、解説員とのコミュニケーションを通して、科学の楽しさを伝えた。</p>
実演展示 (テレビスタジオ、人工降雪装置、低温展示室等)	<p>装置の動きや模型展示の仕組みでは伝わりにくい科学現象を、実演や解説により紹介した。</p>
日曜実験室	<p>実験を体験することによって、子どもたちの「科学する心」を養うため、延べ65回実施した。</p> <p>【実績】参加者数 653名</p> <p>テーマ：4月 「塩水で電気をつくる！」</p> <p>5月～8月 「かんたんラジオで聞こう！」</p> <p>9月～12月「大空を飛ぶ種から考える」</p> <p>1月～3月 「イヤホンをつくろう」</p>
日曜工作室	<p>工作を通して科学的動作原理、材料の利用、道具の正しい使い方等の習得と興味を喚起するため、延べ85回実施した。</p> <p>【実績】2,788名</p> <p>4月～6月 「ゴーバック」</p> <p>「カタカタゲーム」</p> <p>7月～11月「くるくるピエロⅡ」</p> <p>「ゆらゆらUFO」</p> <p>12月～3月「きよろきよろワニさん」</p> <p>「ペット万華鏡Ⅱ」</p>
移動科学館	<p>教育普及活動の積極的な展開を図るため、来館が困難な小学校や聾学校などで科学教室を開催した。</p> <p>また、活動の拠点を更に広げ、他団体の事業にも協力した。</p> <p>【実績】5回 246名（事業協力11回 1,134名）</p>
出前サイエンス	<p>就学前の子どもが楽しみながら、科学に慣れ親しむことができるよう、幼稚園等へ出向き、科学に関する簡単な実演ショーなどを行う出前科学教室を開催した。</p> <p>【実績】7回 619名</p>

ちびっこワークショップ	<p>就学前の子どもたちの科学の芽を育むため、遊びの要素を取り入れた実験等を行う親子向けワークショップを開催した。</p> <p>【実績】8回 217組（630名）</p>
-------------	--

(I) 講座・教室等

気象講座	<p>気象学の啓発を図るため、平成18年8月に日本気象学会北海道支部との共催により、身近な気象現象や話題性のあるテーマについて、専門の講師が最新の研究・情報をわかりやすく紹介した。</p> <p>【実績】受講者数25名</p> <p>テーマ：①天気予報のできるまで ②雲のできるまで ③海洋の植物プランクトンと鉄が語る地球環境 ④海氷はどこで生まれてどう動いているか</p>
親子科学教室	<p>平成18年11月に、科学技術をより身近で親しみやすく感じられるように、親子で参加できる実験・工作教室を実施した。</p> <p>【実績】15組28人</p>
中高生による科学教室	<p>平成18年7月に、中学校・高校の科学クラブの研究成果の発表を中心とした中高生による科学教室を実施し、科学クラブの支援を行った。</p> <p>【実績】4校27名</p>
大学生による科学教室	<p>平成19年12月に、大学と連携して、大学生を講師とした小中学生向けの科学教室を実施し、子どもたちの理科離れを抑制するための取り組みを行っている大学生に研究実践の場を提供した。</p> <p>【実績】21名</p>
先端科学技術講座	<p>科学技術への理解を深めるため、平成19年3月に開催した第1回環境展の中で、企業・大学・行政などと連携し、先端科学技術の現状などの紹介講座を実施した。</p>
工作技術競技会	<p>工作を通して科学技術への理解を深めるため、札幌IT振興普及推進協議会と連携して、コンピュータを搭載した浮遊物体を作るスクーリングを実施し、コンテスト出場へとつなげた。</p> <p>【実績】2回88名</p>

(II) 学校支援事業

総合的な学習の受け入れ	<p>児童生徒との質問応答のやり取りや職場体験を通して、学校側の科学に関する要望に限らず、進路学習的な受け入れも行い、科学館での学習効果を上げた。</p> <p>【実績】60校865名受け入れ</p>
-------------	--

実験・実習セットの貸し出し	学校では準備が困難な実験・実習セットを貸し出し、学校の授業効果の向上に協力した。 【実績】23校 27セット貸し出し
家庭教育学級の受け入れ	札幌市内小学校の家庭教育学級を受入れ、児童と保護者が一緒に学ぶ場を提供し、家庭の教育力の向上に協力した。 【実績】1校 16名
教材教具の共同開発	理科嫌いの子どもたちをなくしていくために、学校と科学館が連携し、授業をつくりあげていくための教材や学習プログラムの開発に協力した。
教員研修	授業やクラブ活動に生かせる観察・実験の紹介や実習を中心に実施し、教材研究に協力した。 【実績】2回 63名
博物館実習生の受け入れ	大学からの依頼により、学芸員の資格取得のための博物館実習生を受入れ、指導した。 【実績】3期 8名

(カ) 科学館ボランティアの養成

案内・工作指導などを中心に科学館事業に主体的に参加し、その一翼を担い、自ら知を楽しむとともに他の利用者に楽しさを伝える科学館ボランティアを養成した。

イ 天文事業の運営

プラネタリウムの機能を生かし、投影内容及び観覧環境の充実を図った。

(7) プラネタリウム

一般投影	天候や時間に関係なく星空を投影できるプラネタリウムを使って、星や星座を知る機会、天文学の初歩から最新情報までを学習する機会を提供した。 【実績】観覧者数 74,137名／投影回数 1,274回
学習投影	小中学校を対象に、理科授業の一環として実施した。学校の授業では理解することの難しい天体の動き、街中では見ることのできない満天の星空を疑似体験することで、天文への興味関心を喚起した。 【実績】観覧者数 市内小学校 184校／15,258名 近隣市町村中学校 1校／102名 投影回数 110回 観覧者数 15,360名
夜間特別投影	季節あるいは新しい天文的話題をテーマとし、通常よりも掘り下げた内容の投影を行うとともに、通常の投影時間では鑑賞できない人びとへの機会の提供のために実施した。 【実績】観覧者数 1,148名／投影回数 9回

<p>イブニング プラネタリウム</p>	<p>特別投影に加え、日中に行っている一般投影を週末の夜間行うことにより、通常の投影時間では観覧できない人へ鑑賞の機会を更に拡大した。 【実績】観覧者数 312名／投影回数 7回</p>
--------------------------	---

(イ) 天体観望事業

<p>天体観望会</p>	<p>プラネタリウム夜間特別投影に併せて、科学館駐車場において一般市民を対象に移動天文車を使った観望会を行った。 【実績】来場者数 403名／実施回数 7回</p>
<p>移動天文台</p>	<p>天文台を利用する機会の少ない市民に、自分たちの住む地域で気軽に天体観望する機会を提供するため、移動天文車により各地へ出向き、天体観望を行った。 【実績】参加者数 2,532名／実施回数 22回</p>
<p>札幌市天文台 夜間公開</p>	<p>多くの市民に天体観望の機会を提供し、天文に対する興味・関心を高め、科学への夢を育むため、夜間の公開を行った。 【実績】利用者数 814名／実施回数 33回</p>
<p>西岡天文台夜間公開</p>	<p>市民の天文に対する興味・関心を高めるため、一般公開することを条件に市民から寄付された西岡天文台において夜間公開を予定していたが、天文台スリット部破損のため、1度も実施することができなかった。</p>

(ウ) 天文指導員の養成

将来、様々な職業・地域に分散した後の天文科学の普及に尽力してもらう青少年の人材を養成した。天文指導員は、科学館が企画実施している移動天文台や各種事業に参加することで、実体験をし、また研修等を通して自己能力の向上に努めた。

【実績】登録者数 45名／修了者数 13名

(イ) 共催事業

a 道民の森観望会（共催：財団法人北海道森林整備公社 道民の森）

平成 18 年 5 月・9 月に当別町にある道民の森と共催で、札幌市内では見られない星雲などの淡い天体を見る機会を提供した。

【実績】参加者数 1 回目 60名／2 回目 116名

b 「宇宙の日 作文・絵画コンテスト」（共催：財団法人日本宇宙フォーラム）

「宇宙の日（9 月 12 日）」を記念して、日本宇宙フォーラムとの共催により市

内小中学生から宇宙に関する作文・絵画を募集し、表彰・展示した。

【応募数】作文 小学生 58 名・中学生 16 名

絵画 小学生 165 名・中学生 36 名

○ さっぽろ星まつり（共催：（財）札幌市公園緑化協会モエレ沼公園）

市民の天文に対する興味・関心を深めるため、モエレ沼公園において平成 18 年 9 月に 2 日間星まつりを開催し、天体観望会、天文クイズ、ペットボトルロケット発射体験等を実施した。

【実績】入場者数 3,000 名

（2）札幌市生涯学習センターの管理運営

札幌市の指定を受けて、市民の生涯学習に関わる活動を支援することを目的として、札幌市生涯学習センターの管理運営を行った。

（支出額）380,811,572 円

ア 貸室事業

市民の幅広い学習活動を支援するため、ちえりあホールをはじめとした各種研修室を、それぞれの活動の場として提供した。

イ 施設の有効活用

学習成果の発表の場として展示スペースの無料開設、受験生等に対する学びの場として空き室の開放等、利用者のニーズに合わせた弾力的な運営を行った。

（3）視聴覚センターの管理運営

札幌市からの委託により、視聴覚教育の推進、市民団体や学校等への学習支援を行うことを目的と、視聴覚センターの管理運営を適正に行った。

（支出額）39,333,131 円

ア 学習教材開発事業

提供教材の充実を図るため、学校教育及び社会教育の関係者等に教材制作を委託して、市販教材にはない、地域に密着した特色あるビデオ教材を制作した。

【実績】新規制作教材数 14 本

イ 視聴覚教材貸出事業

市内の小中学校をはじめ、幼稚園、児童会館、市立図書館、町内会及びサークル

等の団体に対して、学習活動に役立つ16ミリフィルムやビデオ教材等の貸出しを行った。また、新たに教材を購入し、利用促進と教材の充実を図った。

【実績】・教材貸出数：8,451本

(内訳：幼稚園360本、小学校4,917本、中学校1,549本、
高校・養護学校84本、大学・専門学校134本、社会教育機関1,407本)

・新規購入教材数：15本

7 **収益事業**

(寄附行為第4条第7号に掲げる事業)

(収入額) 15,941,364円 (支出額) 11,466,020円

(1) **売店・自動販売機事業(札幌市青少年科学館)**

札幌市青少年科学館の管理運営に附帯する事業として、来館者への便益提供を目的とした売店・自動販売機事業を行った。

(2) **レストラン・自動販売機事業(札幌市生涯学習センター)**

札幌市生涯学習センターの管理運営に附帯する事業として、来館者への便益提供を目的としたレストラン・自動販売機事業を行った。